

第2回おおさかスマートエネルギー協議会 事業者・家庭部門会議 議事概要

1 日時：令和4年1月12日（水）14時半～16時

2 場所：大阪府咲洲庁舎41階共用会議室8

3 出席者：

【構成員】

大阪府生活協同組合連合会、なにわの消費者団体連絡会
大阪府地球温暖化防止活動推進センター((一財)大阪府みどり公社)
大阪市、堺市

【関係団体等】

(特非)大阪環境カウンセラー協会、(特非)摂津市人材サポートビューロー、
大学生協事業連合、(特非)地球環境市民会議(CASA)、
(特非)ひらかた環境ネットワーク会議、Fridays for Future Osaka

【ファシリテーター】

(有)ひのでやエコライフ研究所 代表取締役 鈴木 靖文

4 概要および意見等

(1) おおさかスマートエネルギープランについて

○概要

・大阪府から、おおさかスマートエネルギープランの再生可能エネルギー普及拡大について説明した。

(2) 家庭における再生可能エネルギー電気の共同購入について

○概要

・大阪府から、家庭における再生可能エネルギー電気の共同購入について、事業の概要や事業効果を高めるための広報戦略などについて説明した。

(3) 意見交換

○意見・質問等

- ・日頃の活動を通じて感じるのは、体験が非常に大事であるということ。私たちが再エネを選んでいくことで世界が変わっていくということを感じて理解をすることが重要。また、制度を作って普及させるという視点も大事。
- ・太陽光発電の設置に伴い地域とのトラブルが生じている事例もあり、再エネの選択には配慮が必要である。再エネを正しく選んで利用することが、普及拡大の力になる。

・価格が割引になるという説明があったが、今回選定される事業者に個人が直接申し込む場合と共同購入で申し込む場合の比較なのか。一般的な関電との契約の場合との比較なのか。

⇒今回の基準は、関西電力の従量電灯 A、B との比較。

・昨年の年末に市場価格や燃料価格高騰があり、破綻した新電力会社もある。電力会社との契約の仕方によっては、支払う電気代が高くなることもあり得るが、共同購入では、価格面でのリスク問題どのようにされているか。

⇒市場価格と連動しない料金プランを採用し、昨年冬のような価格高騰の影響を受けにくいもの。

・家庭で再エネ 100%の電気に切替えると、家庭全体で排出される CO2 は 45%削減になる。省エネの効果よりも大きい。切り替えることによる CO2 削減効果を図で示すなど分かりやすく伝えるとより効果的と思われる。

・再エネ電気を販売する新電力は増えつつあるが、昨年冬の話などもあり新電力へ切替えることを不安に思う府民も多いのではと思う。共同購入事業は、行政が進めていくものなので、そうした不安に対して信頼感が得られるので良いと思う。また、基礎自治体である市町村と連携している点も非常に良い。

・普段活動している中で、イベント等に参加いただくのは、主婦や子どもがいる方が多い。子どもや孫の未来のためという意識があり、すでに再エネに切替えているという話も聞く。そうした意味で、低価格かつ環境に良いということは、子育て世帯には響きやすいと思う。子育て世帯へのアプローチを重点的にやると効果が得られると思う。

・地域ごとに地理条件や住んでいる人に違いがあると思うため、市町村ごとにアプローチ方法を変えることも重要だと思う。

・電気の切替えは、どういう事業者から選ぶと良いかや料金体系が非常に複雑。今回の共同購入でそうした点が分かりやすくなると良いと思う。どういう事業者が選ばれるのかなどの情報も欲しい。

⇒事業者選定では、これまで再エネ電気の販売をしてきた実績や財務状況なども選定の際に考慮し、信頼できる業者を選定するようにしている。価格だけでなく会社名等もお伝えするので、納得いただける場合に契約をしていただけたらと考えている。

・再エネは高いというイメージがあるので、再エネ電気に切替えても安くなるという理由は。

⇒小売電気事業者は、営業活動が不要というメリットがある。その部分で価格を抑えることができる仕組み。

・商業施設でのイベントで活躍する市民グループに協力してもらって情報提供すると良いと思う。

・今なぜ再生可能エネルギーが大事なのかということ自体がまだまだ市民には浸透していないように思う。なぜこの取組みを進めるのか、根本的な問題をしっかり PR していくのが大事。

・自治体で環境に関する取組みが様々あるが、取組み自体が市民に認知されていないことも多い。しっかりと市民に見せる・伝えることが必要。何を目指していて、そこに行きつくために、私たちは何をした

らいいのかということ伝えていくと良い。

・脱炭素社会を目指すことについて学生の認知は高まっているが、行動が伴っていないのが実態。学生は、10年後、20年後に主力となっていくので、今が脱炭素に向けたスタートであることを伝えていくことが必要。また、自分たちの行動の効果が見えるとやりがいと感るので、再エネ電気に切替えるという活動にとどまらず、例えば、フードロスなど、様々な個人的な活動がカーボンニュートラルにつながるということを見える化していくと良いと思う。

・行政が取り組む安心感があり良い。

・キャンペーン期間が短いと感じた。

・高齢者をターゲットとした場合、以前実施した太陽光パネル共同購入では、住宅の築年数が経過してパネル設置が難しかったり、新たな投資は無理といった声が多かった。今回の共同購入は、再エネ電気を選ぶというものなので、高齢者でも実施の可能性があると思う。

・ただ、再エネ電気に切替えることで、発電された再エネが専用線で直接届くと思っている方が多い。そうした仕組みに関する理解が進んでいない。また、なぜ再エネ切替えが必要なのかという理解も進んでいない。

・その他では、太陽光パネルの適正処理やリサイクルに関する情報が少ないといった声もある。再エネの普及を進めていくと同時にそういった情報も伝えていくことが必要。

・広報対象として、大学で一人暮らしの学生向けに啓発しても良いのではないかなと思う。その場合、申込をした後に簡単にやめられるかどうか分かっていれば気軽に申し込めると思われるので、契約解除などの情報提供も大事。

・コストの面では、市場価格と連動せず価格変動のリスクが低い点は、ぜひPRすると良いと思う。

・再生可能エネルギーが不安定、高い、自然環境へ悪影響があるかもしれないといったイメージを持たれている方がまだまだおられることが分かった。この共同購入事業を通じて、府民の正しい知識・理解を深めていくことも大事。

・キャンペーン期間を1～4月としているが、その他のシーズンについても考えていく予定はあるか。

⇒キャンペーン実施時期を冬場に限定している訳ではない。今後、キャンペーン実施時期の効果検証を踏まえて、実施時期を見直すことはある。

以上